

14邸の鍵となる住宅

1. ル・コルビュジエ ヴィラ・ル・ラク 1923年

Le Corbusier, Villa «Le Lac », 1923

スイスのレマン湖畔に、ル・コルビュジエが両親のために建てた小さな住宅。ほどなく母ひとりが住むようになった。湖に面した11mの長い窓が特徴の細長いコンパクトな空間には、来客時のベッドも含めて、必要最小限の設備が機能的におさめられている。

2. 藤井厚二 聴竹居 1928年

Koji Fujii, Chochikukyo, 1928

京都の大山崎町の山林に建つ、藤井の5番目の自邸。家族と暮らした「本屋」、趣味を採求した「閑室」、来客を招いた「茶室(下閑室)」からなる。木造モダニズムの傑作と称されるが、日本の気候風土や生活様式を意識した工夫が凝らされている。藤井は、住まいと暮らしに関する自らの先進的な考えを論じた英語の書籍も刊行した。



藤井厚二 聴竹居 1928年 撮影: 古川泰造
Koji Fujii, Chochikukyo, 1928
Photo: Taizo Furukawa

3. ミース・ファン・デル・ローエ トゥーゲントハット邸 1930年

Mies van der Rohe, Tugendhat House, 1930

チェコ共和国のブルノ市にある、繊維業で成功したトゥーゲントハット夫妻の邸宅。通りから見ると平屋のようだが、高台の地形を生かした3階建ての建物である。内部には、ミースがデザインした家具が置かれた。鉄の独立柱で支えられた空間は、カーテンや縞瑠璃の間仕切りなどで、機能的に緩やかに区切られている。



ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ
トゥーゲントハット邸 1930年
Ludwig Mies van der Rohe,
Tugendhat House, 1930

4. ピエール・シャロー ガラスの家 1932年

Pierre Chareau, Maison de Verre, 1932

パリの婦人科医のクリニック兼住居として設計された。別の居住者がいた3階建ての建物の最上階を鉄骨で支えつつ、下2層を解体して3フロアが新設された。ガラスブロックのファサードで覆われた内部は、グリッド状に仕切られ、窓や棚、扉などには、機械仕掛けのさまざまな可動システムが導入されている。



ピエール・シャロー ガラスの家 1932年
撮影: 新建築社写真部
Pierre Chareau, Maison de Verre, 1932
Photo: Shinkenchiku-sha

5. 土浦亀城 土浦亀城邸 1935年

Kameki Tsuchiura, Tsuchiura Kameki House, 1935

土浦夫妻によるふたつ目の自邸。東京の上大崎に建てられた木造乾式構造の建物は、様式、インフラともに欧米の最新の動向を取り入れつつ、日本の風土にも適合するよう設計された。内部は、敷地の高低差を生かした5つのフロアでゆるやかに繋がられている。信子は、家事労働の軽減を意図して台所を機能的に設計している。



土浦亀城 土浦亀城邸 1935年 撮影: 楠瀬友将
Kameki Tsuchiura,
Tsuchiura Kameki House, 1935
Photo: Tomoyuki Kusunose

6. リナ・ボ・バルディ ガラスの家 1951年

Lina Bo Bardi, Casa de Vidro, 1951

イタリア出身のボ・バルディが、ブラジル国籍を得た1951年にサンパウロに建てた自邸。高台のガラスファサードで覆われた建物の周囲には、建築家自身が吟味して植物を植えた。植物や土着の文化に関心が高いボ・バルディは、その開放的な室内を、地元の木材を使って自ら制作した家具や、アーティストの夫とともに集めた美術品や民芸品で満たした。



リナ・ボ・バルディ ガラスの家 1951年
Lina Bo Bardi, Casa de Vidro, 1951

7. 広瀬鎌二 SH-1 1953年

Kenji Hirose, SH-1, 1953

本住宅は、広瀬がSH-72まで手がけた鉄骨造りの「SHシリーズ」の記念すべき第一作。1953年に鎌倉材木座に建てられたこの自邸は、極限まで細くした鉄骨のほか、ガラス、レンガ、コンクリートなどの工業製品を材料とした、きわめて実験的な住宅だった。



広瀬鎌二 SH-1 1953年 撮影: 平山忠治
Kenji Hirose, SH-1, 1953
Photo: Chuji Hirayama

8. アルヴァ・アアルト ムーラツァロの実験住宅 1953年

Alvar Aalto, Murtala Experimental House, 1953

フィンランドのパイエンネ湖にある小さな島、ムーラツァロ島に建てられた、夏を過ごすための自邸。入江から伸びた小道の先のレンガやタイルで覆われた中庭のある本住宅は、敷地内のサウナ小屋や船着場とともにデザインされた。自然との調和や共生を目指したアアルトの思想がよく伝ってくる。



アルヴァ・アアルト ムーラツァロの実験住宅
1952年 撮影: 新建築社写真部
Alvar Aalto,
Muuratsalo Experimental House, 1952
Photo: Shinken-chiku-sha

9. ジャン・ブルーヴェ ナンシーの家 1954年

Jean Prouve, Jean Prouve's House in Nancy, 1954

エンジニアだったブルーヴェが、自身が経営していた工場の部材をもちいて組み建てた自邸。構想段階からの変更を余儀なくされながら、ブルーヴェ自身が設計、施工までも手がけた。傾斜地に最小限の平地を整え、ありあわせの部材を組み合わせて造られた細長い建物には、ナンシーの街を見渡すさまざまなタイプの窓が設置されている。



ジャン・ブルーヴェ ナンシーの家 1954年
撮影: 新建築社写真部
Jean Prouve, Jean Prouve's House in Nancy,
1954 Photo: Shinkenchiku-sha

10. エーロ・サーリネン、アレキサンダー・ジラード、ダン・カイリー ミラー邸 1957年

Eero Saarinen, Alexander Girard, Dan Kiley, Miller House, 1957

アメリカの実業家、ミラー夫妻の依頼により、インディアナ州コロンバスにサーリネンが設計した豪華な邸宅。内装にはジラードも参加し、造園家のカイリーが庭園を担当した。見事な調度とランドスケープを取り込んだ広大な庭を含め、きわめて豪華な邸宅である。



エーロ・サーリネン、アレクサンダー・ジラード、
ダン・カイリー ミラー邸 1957年
Eero Saarinen, Alexander Girard, Dan Kiley,
Miller House, 1957

11. 菊竹清訓、菊竹紀枝 スカイハウス 1958年

Kiyonori and Norie Kikutake, Sky House, 1958

都市や建築も有機的に成長するとする建築運動「メタボリズム(新陳代謝)」を代表する菊竹の自邸。コンクリートの柱で持ち上げられた10×10mのワンルームの周囲に、「ムーブネット」と呼ばれる台所や浴室が、交換可能なものとして設置された。後に、カプセル状の子ども部屋のムーブネットも居住空間から1階のピロティに吊り下げられた。



菊竹清訓、菊竹紀枝 スカイハウス 1958年
撮影: 新建築社写真部
Kiyonori and Norie Kikutake, Sky House,
1958 Photo: Shinkenchiku-sha

12. ピエール・コーニグ ケース・スタディ・ハウス #22 1959年

Pierre Koenig, Case Study House #22, 1959

アメリカの建築雑誌『アーツ・アンド・アーキテクチャ』が企画した実験住宅プログラム「ケース・スタディ・ハウス」のひとつで、スタール邸とも呼ばれる。ロサンゼルスを一望する天井までのガラス壁で囲まれた建物は、映画や雑誌など数々のメディアに登場した。開放的なアイランド型キッチンが設置されている。



ピエール・コーニグ
ケース・スタディ・ハウス#22 1959年
撮影: 新建築社写真部
Pierre Koenig,
Case Study House #22, 1959
Photo: Shinkenchiku-sha

13. ルイス・カーン フィッシャー邸 1967年

Louis Kahn, Fisher House, 1967

アメリカのフィラデルフィア郊外の自然豊かな場所に建つ。キューブ状のふたつの建物を、片方45度ずらして接続している。暖炉の脇にあるリビングの窓辺には、美しい景観を切り取るガラス窓や風を取り込む開閉窓、人が佇めるベンチなど、さまざまな用途が組み合わされている。



ルイス・カーン フィッシャー邸 1967年
Louis Kahn, Fisher House, 1967
撮影: 新建築社写真部

14. フランク・ゲーリー フランク&ベルタ・ゲーリー邸 1978年

Frank Gehry, Frank & Berta Gehry House, 1978

アメリカのカリフォルニア州の、ありふれた建売の住宅を独自に拡張した自邸。使われている建材もまた、波型鉄板やチェーンリンクフェンス、既成の木材など、規格化された量産品である。ゲーリーは、既存の建物を大胆に再構築した本住宅によって、一躍その名を国際的に知られるようになった。



フランク・ゲーリー
フランク&ベルタ・ゲーリー邸 1978年
Frank Gehry,
Frank & Berta Gehry House, 1978
© Frank O. Gehry, Getty Research Institute,
Los Angeles (2017.M.66)